

インターバンクの声（2014年7月7日）

木曜日の米雇用統計が、あれだけ強い非農業部門雇用者数の数字でも102円台に乗せるのがやっとだったとあって、翌日のアジア市場と欧州市場でもドル買いを試して来るような動きはほとんどなかった。むしろ東京時間には、利喰いと思われるようなドル売りから102円割れを試すような動きまで見られた。

雇用統計後のドル上昇が限定的だったのは、翌日の米独立記念日からの3連休を控え、午後遅くまでポジションを引きずりたくないとの意識が働いたニューヨーク勢が多かったのではと考えれば、今週の相場を簡単にドルの上値が重いと決めつけてしまうのは間違いかも知れない。

週の中盤に中国の生産者物価指数や消費者物価指数の発表が目立つ程度で、市場が特に気にしているような指標発表も少ないので、内容がはっきり分かることになる米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨の発表が意外に相場の鍵になるのかも知れない。いずれに相場が動き出すのは今日も夜になってからだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。